

食のまちづくり拠点施設（道の駅グリーンファーム館山）が地域にもたらす効果

千葉県館山市 経済観光部 食のまちづくり推進課

1. 館山市の概要

館山市は、千葉県南部、房総半島の最南端に位置し、黒潮の恩恵を受け、夏涼しく冬暖かい過ごしやすい気候と、豊かな地勢や黒潮がもたらす海の幸、山の幸といった自然の恵みにより、豊かな食文化を育んできた。

特に、34.3kmに及ぶ変化に富んだ海岸線を有する本市では、近海からの新鮮な魚介類が日々水揚げされるほか、農産物では、地域ブランドとして市場評価の高い“かんべレタス”や房州びわ、食用ナバナなどに加え、いちご、なし、いちじく、南国フルーツのマンゴー、パッションフルーツ、ドラゴンフルーツなどの多彩なフルーツ、さらに畜産物では、牛乳、牛肉、鶏肉や卵などバラエティに富んだ食材がある。また、市では有害鳥獣として捕獲されたイノシシをジビエとして有効活用することにも力を入れており、多種多様な食材を活かした“食のまちづくり”を進めている。（なお、ストック、キンギョソウ、トルコギキョウ、ひまわりなど、花卉栽培も盛んである）。

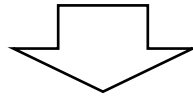
本市は、古くから多くの文人墨客が避暑避寒を求めて訪れる観光リゾート地としても知られ、近年は、東京湾アクアラインや館山自動車道の整備により、都心部からのアクセスも向上し、テレワークやワーケーション、二拠点居住など、新しい生活スタイルに適した地域として人気が出てきている。



2. 地域振興上の課題・対策

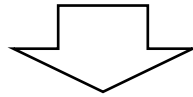
農業や漁業では、担い手の高齢化や減少が進み、耕作放棄地の増加などによる農漁村の衰退が進んでいる。観光業においても、本市は温暖な気候など立地に恵まれながらも、全国的な知名度は低く、他の地域との競争が激化する中で、観光入込客数も伸び悩んでいる。

これまで本市における観光拠点は、北条海岸、「館山夕日栈橋」、「渚の駅 たてやま」等、海沿いを中心に整備されてきたが、農村部の拠点づくりは立ち遅れている状況にあった。

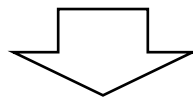


温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、様々な農水産物が採れる「食材の宝庫 館山」。

この多彩な食材を活かし、食の魅力による一次産業の振興、地産地消・食育の推進、観光振興等を図っていきこうと、官民連携による「**食のまちづくり**」を目指す。



全国に館山市の食の魅力を強く打ち出していくためには、情報発信体制が脆弱なことや、生産者のモチベーションを向上させ、生産力を増強させる必要があることに加え、計画的な生産・出荷体制や地域で生産される農産物等を地域内に流通させる仕組みが乏しいことなどが課題とされ、**地域農産物に関する人・モノ・情報などを集め、連携させるための地域活性化の拠点、食のまちづくりの中心となる施設の整備が求められた。**



平成27年2月にたてやま食のまちづくり協議会を中心に「たてやま食のまちづくり計画」を策定し、物販・加工・飲食・情報・体験の5つの基本機能に加えて、駐車場・トイレ・休憩施設等、道の駅の機能を備えた「食のまちづくり拠点施設」の整備方針を決定した。

農水産業の振興

- 地域生産者の直売拠点
- 地域農水産物の6次化拠点
- 地域農水産物のブランド化拠点
- 地域農水産物の外販拠点

観光産業の振興

- 魅力溢れる集客拠点
- 市内観光地への中継拠点
- 市内観光の情報発信拠点

3. 道の駅の立地計画

事業用地の中心となった市有地は、元々「公設卸売市場用地」として準備されたものであったが、計画が白紙となり、長らく用途が決まらなかった。平成 20 年に用地の有効活用に向けたプロジェクトがスタートし、「農業を中心とした交流拠点施設」として活用する方針を決定。平成 22 年度に策定した「第 3 期館山市基本計画」でも、農村交流拠点としての用地活用を市の産業振興施策として位置づけられた。平成 25 年度には、“食”によるまちづくりを官民連携で進めていこうと、農協、漁協、関連団体（観光、商工など）、学識者等による「たてやま食のまちづくり協議会」を設立。平成 26 年度に、「食のまちづくり拠点施設」の整備計画が策定され、その後、約 10 年近い年月を経て、現在の施設開業を迎えた。

立地としては、農産物の流通機能や交通ネットワークの向上を目的に、旧安房郡三芳村から旧安房郡白浜町の国道 410 号線まで、南房総半島部を南北に縦貫する基幹農道である市道 8038 号線（安房グリーンライン）と、館山と鴨川を結ぶ幹線道路である国道 128 号（平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調査（国土交通省）において 24 時間の交通量 18,573 台）が交差する南房総エリアの中心部に位置し、人・モノ・情報の交流拠点として適した場所であり、地域経済の発展に大きく貢献することができるものと期待される。



4. 道の駅グリーンファーム館山 施設概要



【敷地面積】 22,905 m² (臨時駐車場等含む場合 27,867 m²)

【建築面積】 937.01 m² (延床面積 835.84 m²)

【駐車場】 小型・普通車 119台 大型車 9台
身障者用 3台 EV充電 1台

【トイレ】 男：(小) 6器 (大) 3器
女：10器
多目的：1箇所

「食と体験のテーマパーク」

五感で楽しむ
体験型の道の駅



マーケット

地元の旬の野菜や果物、花をはじめ、ジビエや市内事業者とのコラボスイーツ、おみやげ品、工芸品など地域のおすすめ品を取り揃える。



農園

季節の野菜や花の収穫、農作業の体験ができる。

自らの手で収穫や農作業を行うことで、館山の食の魅力をより深く体感。



キッチンスタジオ・イベント広場

キッチンスタジオは、調理機能を備えた多目的室で、調理体験のほか、観光客や地元の方の交流イベントなどにも利用可能。

その他、建物西側のイベント広場での乳しぼり体験や、移動販売エリアへのキッチンカー出店によるマルシェ開催など、賑わいを創出する各種イベントが予定されている。



インフォメーション・情報発信コーナー

地域農産物や食の魅力をPRするほか、季節の観光情報や地域の歴史文化情報などを発信。



レストラン・テイクアウトコーナー

地元農産物等を活用したメニューで館山の食の豊かさ、魅力を堪能できる。



5. 食のまちづくり拠点施設（道の駅グリーンファーム館山）が地域にもたらす効果

- ・ 基幹農道である市道 8038 号線（安房グリーンライン）と幹線道路である一般国道 128 号が交わる房総エリアの中心部に地域の食の魅力を発信するこの拠点施設を整備することで、食のまちづくりの根幹にあたる第一次産業（農業）の振興や地産地消の推進、異業種間の連携、交流人口の増加、市内全体の魅力向上による周遊性の強化などを図り、地域全体の発展を目指す。

“食のまちづくり”で地域の魅力UP！！

